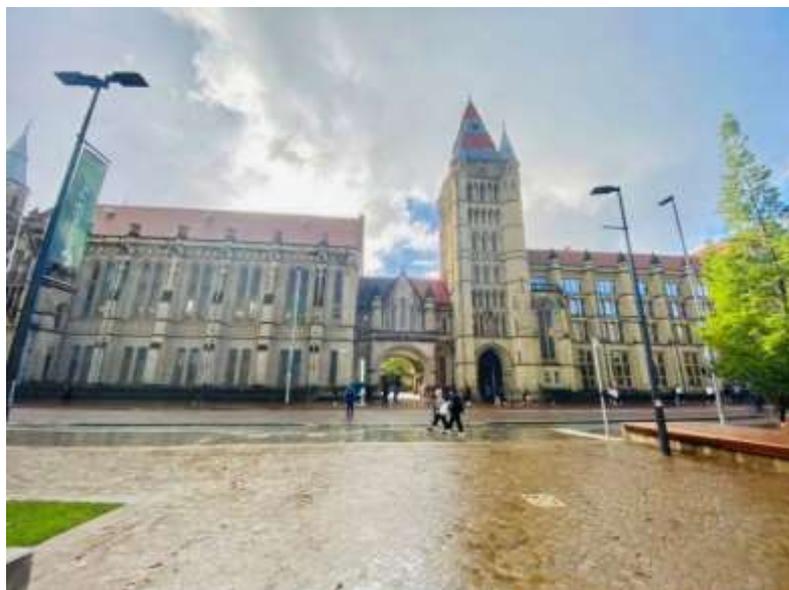


## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年2月20日
明治大学の所属学部・研究科	商学部商学科グローバルビジネスコース
留学(渡航)した時の学年	4年生
帰国年月日	2023年2月11日
明治大学卒業予定年月	2023年3月
留学先大学について	
留学先国	イギリス
留学先大学	マンチェスター大学(日本語名) The University of Manchester(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2022年9月~2023年1月
留学先大学で在籍した学年	1年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): (現地言語での名称): <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例:1 学期/4 月上旬~7 月下旬、 2 学期/9 月中旬~2 月上旬	1 学期:9 月中旬~1 月下旬      2 学期: 3 学期:                      4 学期:
学生数	40,000 人
創立年	1824 年



留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ポンド)	日本円	備考
授業料	0	0円	
宿舍費	3,293.15	526,000円	食事付き
食費	618	100,000円	昼食、外食
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	50	8,021円	
現地交通費	50	8,021円	テニスチームの練習場所までバス利用( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	920	150,000円	
被服費	300		
医療費	30	4,890円	
保険費	323	52,705円	形態:海外旅行保険(明大サポート)
渡航旅費	964	157,108円	
ビザ申請費		0円	
雑費	197	32,070円	
その他		円	
その他		円	
合計	6,617	1,087,720円	

渡航関連	
<b>渡航経路</b>	
往路 出発地:成田空港 目的地:マンチェスター空港 経由地:アブダビ空港	
復路 出発地:ロマ・フィウミチーノ空港 目的地:成田空港 経由地:ドバイ空港	
<b>渡航費用</b>	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:エティハド航空 料金:70190 復路 航空会社:カタール航空 料金:86918 ∴合計:157,108	
<b>航空券購入方法</b>	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: )	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:skyscanner)	
<input type="checkbox"/> その他( )	

## 滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前:ダルトンエリスホール) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数 )

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

留学先の International Programme Office から送られてくるメールの指示通りに寮を探しました。交換留学生は大学の寮(全部で約 20 個ほど)に住むことが保障されています。大学の寮のウェブサイトからそれぞれの寮について調べ(エリア・料金・食事つきかどうかなど)、第 1 希望から第 5 希望までを申請します。その後、メールでオファーが来たのちに、承諾してデポジットを払うという流れです。ただ、そのオファーは希望通りの寮とは限らず、オファーを受けないこともできますが、その場合必ず大学の正規の寮に住めるかは保障されないそうです。私がオファーを受けた寮は第 1 希望から第 5 希望のどれでもありませんでしたが、その寮のオファーを承諾しました。あとから分かったことですが、私が住んでいた寮にある 2 棟は 2 月から改修工事が行われるため 1 学期間の交換留学生がそこに集められていました。1 年間の交換留学できていた他の日本人留学生は希望通りの寮に住めていたようです。

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私は、大学から徒歩 25 分ほどの Victoria Park というエリアにある食事付きの寮(Dalton Ellis Hall)の Ewings という棟に住んでいました。結論から言うと、私はこの寮はおすすめしません。その理由は、食事・利便性・騒音の 3 つです。まず、食事です。どうやら大学のどの食事付きの寮でも食事のメニューは同じだそうです。あまり美味しくなく不健康なメニューが多かったです。寮の食事は、平日は朝・夜のみ、土日はランチと夜で、時間も限られています(朝 7:30~9:30、夜 17:15~19:00)。朝食は毎日同じビュッフェメニューでベーコン、ソーセージ、スクランブルエッグ、バイクトピーンズ、クワッサンなどのパンやヨーグルト、フルーツなど食べられます。問題は夜ご飯でした。曜日ごとにメニューが決まっているのですが、毎日出るフライドポテトや茹ですぎてふにゃふにゃのスパゲティ、ナイフできれいなほど硬いステーキなどが印象に残っています。食事付きではない寮を希望していた私にとって、お金の釣り合わず健康に悪いというのが率直な感想です。寮の食事を諦めて毎日自炊をしている友人もいました。さらに、わたしが住んできた棟のフロアは 18 人で 1 つのキッチンで、冷蔵庫 2 個・レンジ・オープン・電気ケトルはありましたが、コンロや IH はなく、オープンの上に付属しているホットプレートが 2 つでした。特に、12 月中旬から 1 月中旬までのクリスマス休みで食堂が閉まっていた時はとても不便でした。設備に関しては同じ寮でも棟によって全く違ったので、運次第です。外食をするにしてもイギリスではレストランの消費税が 20%かかることもあり、費用がかさみます。食事付きではない寮であればもう少し自炊しやすい環境が揃っていて、食事にお金をかけずに過ごすことができると思います。

次に利便性の面では、どの建物で授業を受けるかによりますが、私の場合大学まで歩いて 30 分ほどかかりました。私は徒歩で通っていましたが、バスの定期券を買う学生も多かったです。大学の近くの寮であればランチを部屋に戻って食べられたり、自習する際にメイン図書館にいやすいので便利だなと思いました。

最後に、騒音の面では、部屋の壁がとても薄く、隣の部屋や廊下で話している内容が全て聞こえるほどでした。不幸にも、隣の部屋の学生はスピーカーを大音量で流しながら歌う習慣があったので、部屋で勉強に集中できない時や休めない時が多々ありました。また、毎週末私のフロアのキッチンに大勢の友人を呼んで夜中までパーティをする学生がいたので、イヤホンをしたまま寝ることがありました。

他にも、寮のトイレが詰まりやすく、フロアのほとんどのトイレが使えない状況が頻繁に起こったり、シャワーは 5 分ほど待たないと暖かい水が出なかったり、と不便なことが多かったです。

これまで長々と寮の悪かったところを述べましたが、良かったところもありました。例えば、食事の際に食堂で多くの学生と交流できる点やテニスコートがついている点(雨で濡れていてほとんど使えませんでした)です。特に寮が同じ友人と夜ご飯の際に今日起こったことを話したり、旅行の計画をしたりできたのはとても良かったです。

イギリスの生活環境に期待していた訳でなかったのですが、それでも失望・落胆したことが多かったので期待値を最低限まで低くして日本を出発することをお勧めします。



寮の部屋

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院、学内の診療所)

- なし  
 あり (治療を受けた場所: )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。  
 (例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

- なし  
 あり (問題の内容や相談した人等: )

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

日本大使館からの情報や現地のニュースなどをチェックするようになっていました。寮の周りは暗い道が多かったため、夜遅くに一人で出歩かない事や、夜遅くなってしまう場合はバスやタクシーを使うようにしました。私自身が犯罪に巻き込まれることはなかったのですが、普段通っている大学に接している大通りで学生が亡くなる殺傷事件や寮の図書館で学生のパソコンが盗まれる事件がありました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮には大学のWifiが通っているので問題なかったです。

私は giffgaff という格安キャリアを使っていました。日本を出発前に sim カードを取りよせておいて、イギリス到着時に取り付け問題なく使えました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現金はほとんど使わず、タッチ決済ができるクレジットカードを使っていました。

私は留学の途中で Wise と Revolute の銀行口座をオンラインで開設しました。これには幾つが理由があります。まず、大学から学生に生活費高騰に対する補助金が給付された際に、現地の口座が必要であったからです。また、これらの銀行は手数料がかからず、円からポンドに替える際の為替レートも圧倒的に低いため、日本の銀行のクレジットカードを使うよりも節約できます。さらに、多くの学生がこれらの銀行口座を持っているので外食などで立て替えた際の送金にとっても便利でした。どちらも日本で口座を開設することができるので、留学が始まる前にどちらかの口座を開設しておくことをお勧めします。加えて、私が使っていた日本の銀行では本人確認をするための電話番号が日本のものしか登録できず、とても不便でした。現地のキャリア(giffgaff)などを使う場合電話番号も新しくなるので注意が必要です。さらに日本の銀行は、直接電話で問い合わせる際にも、時差があるので電話するタイミングがなかったり、海外通話で高額な電話料がかかったりするので、お勧めしません。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

日本食に関しては、現地のアジアンズ・パ-で高めではありますが買うことができるので、大量に持っていく必要はないと思います。個人的には、スーツのようなフォーマルな服装を一着持って行けばよかったと思いました。1学期間で3度ほどフォーマルディナーというイベントが開催され、男性はスーツ 女性はドレス着用が推奨されるので、持っていることより一層楽しめると思います。(普段着でも問題はないので必須ではありません。)

風邪薬などは自分に合う日本のものを持っていく方が良いと思います。

現地でできた友人にプレゼントできる日本のもの(箸やお菓子など)をもっていくと喜ばれるのでおすすめです。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)



寮の朝食・夕食



## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:必要な単位数を取り終わっているため)	
2)履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他(   ) <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった:2年次以降のモジュールはその分野の基礎的な科目をすでに履修していることが求められます。		
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Financial Reporting		財務報告論
科目設置学部・研究科	Humanities	
履修期間	Semester 1	
単位数	10	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	レクチャー、ワークショップ(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に60分が3回	
担当教授	Prof. Jennifer Rose, Prof. Andrew Pierce	
授業内容	財務報告の原則や役割、財務諸表、複式簿記、企業分析などについて。週に50分のレクチャーが2回とワークショップが1回ありました。ワークショップでは、レクチャーで学んだことについて議論したり、問題をグループで解いたりして内容理解を深めます。	
試験・課題など	試験(80%)、クイズ(20%)、エッセイ(成績に含まれない) 毎回のレクチャーの前にリテイングや動画の視聴、練習問題等が事前課題として課されています。	
感想を自由記入	1年生向けの必須科目で大ホールでレクチャーを受講しました。教授が学生に意見を求めたりクイズを出したりしたため、積極的に参加することができました。期末試験は大学の近くのジムの体育館で行われました。週に1回のワークショップでは、20人ほどの少人数で自由に質問ができたし、エッセイのアドバイスを頂いたりしたのでとても役立ちました。私は、英語で会計について学ぶだけでなく、日本の会計基準とイギリスの会計基準(IFRS)の違いについて学ぶことを目的にこのモジュールを履修したのですが、授業内でIFRSについて触れる時があったので興味深く勉強することができました。	



寮の図書館

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Financial Market and Institutions		金融市場と金融機関	
科目設置学部・研究科	Humanities		
履修期間	Semester 1		
単位数	10		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義、ワークショップ(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回と隔週で60のワークショップが1回		
担当教授	Prof. Ning Gao, Dr. Ellen, Y. He		
授業内容	金融市場や銀行をはじめとする金融機関、金融債券、株式市場、ヘッジファンドなどについて。		
試験・課題など	90分間の期末試験(4択問題が25問と論述問題が2つ)(90%)・クイズ(10%) レクチャー前のリーディングとレクチャー後に復習用のクイズが課されています。また、ワークショップは、事前に練習問題や論述を考えておく必要があります。		
感想を自由記入	2年次向けの授業でした。金融関係の専門用語を覚える必要があり、勉強になりました。概念的な内容が多く、計算問題などは少なかったです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Inequalities in Contemporary British Society		現代のイギリス社会における格差	
科目設置学部・研究科	Humanities		
履修期間	Semester 1		
単位数	20		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義、チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回と60分のチュートリアルが1回		
担当教授	Dr Nadim Mirshak		
授業内容	イギリス社会における教育や仕事、人種、性別、民族、年齢などの差別について、社会学の観点から分析する。		
試験・課題など	1500 words のエッセイ(50%)・期末試験期間に1000 words のエッセイをテーマ発表後1週間以内に提出(50%) レクチャーの前にリーディングを行い、チュートリアルまでにディスカッションする内容について多くの質問が提示されるため、自分の意見をまとめておく必要があります。		
感想を自由記入	私の専攻ではない上に、2年次向けのモジュールで最も苦勞した科目でした。イギリスにおける格差について意見を求められることが多々ありました。日本社会におけるさまざまな格差との類似点や相違点を学ぶことができ、非常に有意義なモジュールでした。 1500 words のエッセイでは、イギリス社会において教育機関がどのように階級格差を再生産しているかについて論じました。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Development Economics II A: Growth, Capital Accumulation and Structural Change		開発経済学 II A: 成長、資本蓄積、構造変革	
科目設置学部・研究科	Humanities		
履修期間	Semester 1		
単位数	10		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義、チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回と隔週で60分が1回		
担当教授	Nick Weaver		
授業内容	経済モデルを用いて開発途上国における構造変革や成長について分析します。具体的にはアダム・スミスやマルクスをはじめとする経済学者の理論から、ハロッド・ドーマの成長モデルや新古典派成長モデル、ルイスモデル、サウエルの理論について学びました。		
試験・課題など	期末試験期間にエッセイが2つ(100%)・レクチャーの最後に振り返りのクイズ		
感想を自由記入	2年次向けのモジュールで、私は商学部の必須科目である経済学しか履修していなかったため、内容理解が難しいと感じることが多かったです。明治大学では履修することができない科目だったので、とても興味深かったです。		



授業の様子

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職   進学   未定   その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

マイナビ国際派就職、外資就活、シブニキャリアフォーラム

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

外資系コンサルタント企業

留学経験を活かし、グローバル人材として日本企業のグローバル化や DX に貢献したいと考えたからです。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるときに注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

私は大学 4 年次の秋学期に留学したため、留学前に内々定をいただいている状態でした。現地で知り合った日本人交換留学生の中には、私と同じように就活を終えた状態で 4 年時に留学していた学生がいました。

個人的には、留学は就職活動にとっても役立つと思います。私は 3 年時にオーストラリアの大学に 1 年間オンラインで交換留学をしていました。その際、シブニキャリアフォーラム(ホスキャリアやロンキャリアのオーストラリア版)に参加し、第一志望群の企業から内々定をいただくことができました。このように留学生向けの選考に参加出来るというのは、留学から得られる副次的なメリットの 1 つだと思います。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。



留学フェアの様子

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、  
期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	10/28 オンライン応募、11/9 書類提出、12/4 面接審査
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	6/9 航空券購入、7/9 滞在先の確保
	8月～9月	9/11 留学開始
	10月～12月	11 月中間試験
留学/帰国年	1月～3月	1 月中旬から期末試験、2 月初旬帰国
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	



試合後のテニスチーム

## 留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

以下では、私がイギリス・マンチェスター大学を選んだ理由、留学生活全般の感想、後輩学生へのアドバイスについて書かせていただきます。

まず、私がイギリスを選んだ理由を学術面と非学術面から説明します。学術面では、「IFRS(欧州をはじめ多くの国々が採用している国際財務報告基準)について理解を深めたい」というのが大きな理由の1つです。近年、企業のグローバル化に伴い会計基準の統一化がなされる中で、IFRSがその中心的役割を担ってきました。日本においても、IFRSに歩み寄るような会計基準のコンバージェンスが進められているため、その中心国である英国で会計学を学びたいと考えました。2つ目に、英国が世界の最先端をゆく開発学に興味があったからです。持続可能な開発が世界中で議論されている中で、移民問題や紛争問題といったグローバル課題に対して、多様な国籍が集まる英国で視野を広げたいと考えました。一方で、学術面以外でイギリスの大学に行きたかった理由として、私が幼い頃から続けているテニスが人気であることが挙げられます。実際に、私はマンチェスター大学のテニスチームに所属することができ、週に2度の練習と週に1度の試合に参加し、他大学の学生とも交流することができました。特にアウェーの試合では、リヴァプールや北ウェールズなどに行く機会があったのでとても楽しかったです。また、旅行がしやすい点がもう一つの理由です。クリスマス休暇では、同じ寮に住んでいたドイツ人の友人宅に招待してもらいました。

また、数多くあるイギリスの交換留学先の中で、マンチェスター大学を選んだ理由は私が出願できるイギリスの大学の中で最もレベルが高く、質の高い授業を受講でき、切磋琢磨できる学生がいる環境だと思ったからです。実際に、世界のトップ大学から沢山の交換留学生が来ており、授業の取り組み方など勉強になることが沢山ありました。

次に留学生活全般の感想をお話します。特に良かったと思うことは、様々なバックグラウンドを持つ友人と出会えたことです。今まで海外旅行も一度もしたことがなかった私にとって、彼らの価値観や考え方はとても新鮮でした。特に仲が良かった友人の1人は、ミャンマー出身でシンガポールの大学からの交換留学生でした。彼は卒業後投資銀行で働いた後に、母国に戻り政治家として国を良くすることが夢だと話していました。留学中は沢山助けってもらい、沢山の思い出を作り、留学が終わりそれぞれの大学に帰った後も連絡を取り合っています。留学をしていなかったらきっと出会えなかった彼らと関係を築けたことが何よりも嬉しく思います。また、語学力に関してですが、1学期間の留学でもスピーキングやライティングの苦手意識がなくなりました。ただ、もっと上手く話せたらと日々痛感していたので、留学先でも語学勉強を続けていました。

最後に、留学を考えている後輩学生に一言アドバイスを言わせていただきます。留学に行きたいと思ったら今すぐ行動すべきです。留学先のリサーチや語学勉強、明治大学の授業で良い成績を取りGPAを上げる、など今できることは沢山あると思います。私は、コロナウイルスの流行で4年次に留学することになりましたが、一年生の時から留学の準備を始めていました。早く準備をすることが留学を成功させる鍵だと思います。

間違いなく、この留学経験は私の人生において、今後のキャリアにおいてもかけがいのないものとなりました。留学をサポートしてくださった、明治大学国際連携事務室の方々をはじめ、家族・友人にこの場を借りて感謝申し上げます。交換留学を目指すみなさんを応援しています。